

# 協議会だより

DHA・EPA協議会  
〒151-0062  
東京都渋谷区元代々木町 32-7  
一般財団法人日本水産油脂協会内  
TEL & FAX: 03-3469-6931  
URL: <http://www.dhaepa.org/>  
E-mail: [dha\\_epa@par.odn.ne.jp](mailto:dha_epa@par.odn.ne.jp)

事務局 南部 章

## アトランティックサーモン

この度はアトランティックサーモンに関する記事がありましたので、ご紹介したいと思います。和名は大西洋鮭で、ユーラシア大陸西部では単にサーモン(salmon)と言えばこのアトランティックサーモンを指すようです。これに対してアジア諸国ではシロサケを主とした太平洋鮭をサーモン(salmon)と呼んでいます。

近年はアトランティックサーモンの養殖が盛んに行われており、ノルウェー、チリ、イギリスを中心に世界中で養殖されており、この3か国で世界の生産量の8割以上を占めています。市場で販売されているアトランティックサーモンのほとんどは養殖で、餌料が管理されていることから寄生虫の心配がなく生でも食べられます。刺身の食材としても一般的で、回転寿司でも定番メニューで人気があるようです。

FAOの統計をもとに、養殖アトランティックサーモンの生産量を調べてみました。今から20年前の1997年の養殖アトランティックサーモン生産量は64万7千トンで2014年は232万6千トンの生産量でした。20年近くで生産量が4倍近くに伸びています。そして、アトランティックサーモンの養殖を支えているのが餌料であり、その主要成分が魚油、魚粉になります。近年は水産養殖の進捗とともに、魚油、魚粉に対する需要が増加して来ました。

取り分け、魚油に対する需要が増加しているように思われます。サケも人間同様にDHA、EPAを体内合成する能力が不十分で餌料から摂取する必要があり、生産量の増加とともに魚油に対する需要も増加して来ました。その一方で魚油に含まれるDHA、EPAの機能性がクローズアップされ、医薬品や健康補助食品としての需要が高まっています。このような状況に加えて、エルニーニョのような自然現象が魚油の生産量に影響を及ぼしたこともあり、餌料に変化がもたらされました。スコットランドで生産されたアトランティックサーモンの脂肪酸組成について、2006年に生産されたものと2015年に生産されたものを比較したデータがあります。それによりますと、2006年に比べて2015年に生産されたアトランティックサーモンは、オレイン酸、リノール酸、 $\alpha$ -リノレン酸の割合が高くなり、DHA、EPAの割合が下がっていました。これは、陸上由来の餌料の割合が増加していることを示しており、ナタネ油が魚油の代替品として加えられています。2000年から2012年の間に水産養殖餌料の生産量が1,500万トンから3,500万トンに増加した一方で魚油の消費量は約80万トンでそれほど変化していないというデータもあります。

大方の人は魚介類を通してDHA、EPAを摂取すると思いますが、養殖アトランティックサーモンのDHA、EPAが減少しているのは危惧されますが、天然のアトランティックサーモンに比べて養殖のほうがDHA、EPAが多く含まれているということが記載されておりましたので付け加えておきます。

《幹事会のうごき》 平成30年1月19日(金)15:00~17:00に一般財団法人日本水産油脂協会新館において平成29年度第9回幹事会が開催された。

- ・次年度総会講演会として、国際水産資源研究所および経済産業省ヘルスケア産業課に講演をお願いした旨の報告があった。カツオ・マグロ類の資源状況や高齢化社会における社会経済システムの再構築についてご講演をいただく予定です。
- ・昨年12月に開催された、CODEXの栄養・特殊用途食品部会についての報告があった。